

## どんぐりの背くらべ

益田東高等学校 2年 林 志保

「どうしても、韓国や朝鮮は好きになれん。」と祖母に言われ、私も何となくそう思っていました。皆さんは、在日コリアンを知っていますか。在日コリアンとは、日本に在留している韓国・朝鮮の人や、親が韓国・朝鮮国籍で、生まれた子どもが日本国籍の人たちをいいます。今、日本に五十万人近くいます。

私がこのことを知ったのは、中学三年生の時でした。私の中学校では二年に一度、朝鮮学校との交流があり、同じ年齢の人たちが四十人ぐらい広島からやってきます。日本人ではないという、ただそれだけの先入観で、交流会の前日にはその人たちと上手く話せるかと不安でした。しかし、母に「朝鮮や韓国を嫌うのは、ニュースなどを観ているからだよ。個人は何も悪くないでしょ。きちんと一人の同じ中学生として話すこと。」と言われました。

覚えたばかりの名前で「チョンちゃん、よろしくね。」ドキドキしながら初めて話しかけた時、「うん、よろしくね。」と微笑みながら優しく答えてくれました。一瞬にして、私たちと何も変わらないことに気づきました。朝鮮学校の人たちと班を作ってゲームをしたり、ジャズや朝鮮民謡の「アリラン」などを合同で演奏をしたりして、お互いの部活動を見せ合ったりしました。朝鮮学校特有の舞踊部がとても素晴らしかったのが印象に残りました。

私はその後、ヘイトスピーチの実態を初めて知りました。朝鮮学校の先生が話してくれるまでは、ヘイトスピーチという言葉も意味も、この時まで知りませんでした。ヘイトスピーチとは、差別や偏見による発言や行動のことです。在日コリアンの人々は、このヘイトスピーチに今なお苦しめられているのです。私たち日本人のデモ隊に、「朝鮮人、朝鮮帰れ。帰れ。早く出て行け。」という言葉浴びせられ、悲しい目に遭っているのです。日本に慣れ親しみ、優しくて大好きな友だちがたくさんいるのに、一方ではなんて冷たい日本人もいることか。正直な気持ち、衝撃的な話でした。それと同時に一人の日本人として恥ずかしくなりました。私も初め、そのような偏見をしていたことに、すごく罪悪感を感じ後悔しました。私の学校やクラスでも、親が韓国・中国・フィリピンの人がいますが、お互いがみんなと同じように仲良く接しています。

私はこの交流会で、とても仲良くなった人ができました。笑顔の可愛い焼肉屋の女の子、名前は金智栄（キムチョン）。交流会後、手紙のやり取りをして、お互いの国のことや今の考えなどを伝えたりしていました。高校に入学してから夏、キムチョンから、「県大会おめでとう。」というメッセージと一緒に花の形をしたイヤリングが届きました。私はその心がとても温かくて懐かしい気持ちになりました。好きになれないと言っていた祖父母も、このことを知って「気遣いができるいい子だねえ。」と言ってくれたのです。私自身、初めは偏見を持っていましたから、なんだか損をしたような思いがしました。みなさんの中にも偏見を持っている人がいるとしたら、この話を通して是非知ってほしいのです。

日本は日本人だけの国ではないこと。みんな仲間であること。勉強ができるとかできないとか、話し上手だとか苦手だとか、得意なことがあったりなかったりと、人それぞれです。差別をやめて共に生きようとしている人たちが頑張っていることを忘れないでいたいと思うのです。そして、ヘイトスピーチで苦しんでいる人への理解を、自らが進んでしなければならないことを、もう一度考え直して欲しいのです。在日コリアンに限らず、背が低い、色が黒い、体が不自由、どこで生まれたかと、差別や偏見の例を挙げればきりがありません。これから先、いろいろなことがある中で、どれだけ相手のことを思えるかが大切だと思います。

祖母は、「礼儀正しさや考え方からしても、何をするかわからないから恐ろしい。」とテレビに向かってつぶやいています。そんな祖父母を横に置いて、一つ上の姉と一緒に吹奏楽部で、みんなと切磋琢磨しながら仲良くしています。姉とどっちが優しいかとか、どっちが演奏がうまいかとか比べる私に、誰かが言いました。

「人間みんなどんぐりの背くらべだ。」と。